

愛の家 2006年 活動報告

2006年は感謝の年でした。聖書は‘すべての事について、感謝しなさい’と私たちに勧めています。そして、神様の助けによって与えられた多くのことすべてに、私たちは本当に感謝しています。楽しい機会が与えられたときに、感謝の心を持つことは簡単です。たとえば、みんなで行った海へ旅行がよい例です。しかし、悲しい出来事の中ではどうでしょう。愛する者の死に直面するとき、感謝の心を持つのは非常に難しいことです。しかし、私たちは2006年に神様がなしてくださった、すべてのことに感謝したいと思います。そして、みなさんとこの感謝の気持ちを分かち合いたいと思います。

**土地を購入**

2006年の大きなニュースは、愛の家の新施設建設のための土地、約3.2エーカーを購入できたことです。そのために献金してくださった方への感謝の気持ちをこめて、子供たちがキルトをつくりました。

**市民権**

さらに二人の青年がタイの市民権を取得することができました。これで愛の家の子供たちのうち、18人が市民権を得たこととなります。市民権を得ていないあと7人のために、活動を続けます。

**新しい家族**

この年、5人の新しい子供が、愛の家に加えられました。ポンチャイ、ジャム、バンク、クリーム（キムさんに抱かれている幼児）、そして、トーが私たちの新しい家族となったことに感謝です。

**たのしいビーチ**

海への旅行は子供たちにとって、2006年一番の思い出となりました。集めた貝殻に色を塗ったり、いろいろな遊びや活動を通し、海の恵みを体感しました。

**ドリームワールド**

バンコク郊外にあるテーマパーク、ドリームワールドでは、子供たちははじめての雪やそり遊びを体験しました。子供たちにとって、雪をさわるのはもちろん、見るのもはじめてでした。

**洗礼式**

オイが基督教の洗礼を受けたことは、とても感謝なことでした。洗礼を受ける前に、自の信仰を確認し、今では聴力障害者の教会のメンバーとして、積極的に出席しています。

**特別レッスン**

ボランティアの協力によって、英語や日本語のレッスン、そして自分の属する民族の言語を学ぶ機会が与えられました。音楽に興味がある子は、キーボードを習っています。

**責任分担**

すべての子供は班ごとに、役割が与えられます。テーブルを用意したり、食後の後片付けをしたりします。大きい子供たちは自分で洗濯します。責任と共同作業を学ぶことを、目標としています。

**聖書キャンプ**

毎年行われる聖書の学びのためのキャンプが10月に行われ、男女関係の中で正しい選択が今年のテーマでした。聖書に書かれているモラルを学ぶことは、1代の子供達にとってとても有益でした。

みなさんの訪問、ほんとうに感謝します

愛の家の子供たちは、毎日、お祈り・礼拝の時間を持ちます。その中で、感謝の心を持つことを学びます。子供たちが一番楽しみにしているのは、ゲストの方々の愛の家への訪問です。2006年は30グループ、209の方が訪問してくださいました。子供たちにとっては一番のプレゼントです。



特別な思い出



特別な友達

スポンサーの方々が捧げてくださる時間、労力、献金の一つ一つを私たちは本当に感謝しています。特に、遠い国から旅をして、愛の家を訪問してくださるお客様に、子供たちはいつも大喜び。言葉はわからなくても、歌や踊りを通して心が通じ合える、そんな友達が世界中にいるということは、子供たちにとって、おおきな励みです。

グレイス・インターナショナル・スクールの先生と生徒たちが、一年を通して愛の家を訪問し、毎週土曜日には子供たちのために特別プログラムを用意してくださいました。年上の子供たちと、よい関係が築けていることを感謝です。

ドゥイドゥイと共に過ごした日々を、心から感謝します



サタワット・ユーボ 1991年1月1日- 2006年7月2日

愛の家の子供の一人、サタワット・ユーボの死は、私たちの心を悲しみで満たしました。しかし、私たちが彼の人生を共に分かち合ったことを感謝したいと思います。ドゥイドゥイと呼ばれていたサタワットは、2006年7月2日、神様のもとに帰りました。エイズ発症と、それに伴って起こった症状に、何ヶ月も苦しんだ後のことでした。ドゥイドゥイは病気による苦しみのなか、早く天国で楽になって休みたいと語っていました。ドゥイドゥイが今、神様の御手の中にいることに、私たちは安らぎを得ます。

ドゥイドゥイが最初に愛の家に来たとき、彼はまだ6歳でした。そのときすでに、彼の妹はエイズ発症のため、病院で亡くなっていました。その病院から私たちのスタッフに連絡があって、ドゥイドゥイの家族と知り合うことができました。アカ族出身であるドゥイドゥイの家族は、病気の母親ドーラさんと二人の姉も含め、全員が愛の家で暮らすようになりました。ドーラさんが亡くなった後も、三人の子供たちは愛の家で生活し、教育を受けつづけました。

過去二年間、ドゥイドゥイは病気の症状が重く、通学できませんでした。比較的元気なときは、愛の家で聖書を学びました。病気と闘う厳しい試練の中、彼は神様への信仰を失いませんでした。一人の少年が後日私たちに語ったところによると、彼はドゥイドゥイに、祈りの生活を送るよう励ましを受けたといいます。自分を取り巻く状況がいかに困難でも、誠実に祈り続けたドゥイドゥイの姿を見て、この少年は心を動かされました。私たち全員にとって、ドゥイドゥイと過ごした日々は、かけがえの無いものとして心に残っています。

連絡先: **IMEM**

P.O.Box 488, Chiang Mai 50000 Thailand

Email: info@imem.org

皆様からの支援・サポートは、プロジェクトをご自身で指定していただくことが可能です。詳細を知りたい方は、メールにてご連絡ください。また毎月発行している、祈りの課題（英語）をメールで受け取りたい方も是非お知らせください。